**第９期第１回地域包括ケア推進会議　＜CSW部会＞　会議録**

**日時**: 2024年8月28日（水）19:30～21:10
**場所**: 中野区役所6階 601会議室（CSW部会）
**出席者**：下記のとおり

**【委員】** １４名（うち代理１名）

加山委員、和気委員、丸本委員、中山（浩）委員、松本委員、秋元委員、白岩委員、中村委員、宮原委員、大場委員、白澤委員、楠氏（新實委員代理）

欠席者：２名
渡邉委員、大浦委員

**【オブザーバー】** １名
小山氏

**【事務局】** ５名
石井部長、河田課長、細野課長、鈴木所長、荒井所長

**議事要旨**

**中野区地域包括ケア推進会議　全体会閉会**（19:31終了）

* **各部会に移動**
* **CSW部会員は**601会議室へ移動、**孤独孤立対策部会員**は 605会議室に残る。

**１　＜CSW部会＞開会** (19:３７～)

* 河田課長が開会を宣言し、会長が決まるまで全体会を進行する。

**２　CSW部会部会長等の選任** (19:3９～)

* 会議運営要領に基づき、部会構成員の互選により部会長を選任する。
* 事務局より会長候補として加山委員が提案され、委員総意により部会長として選任された。以降進行は部会長が行う。
* 会議運営要領に基づき、部会長は副部会長とし、和気委員を指名し、了承された
* 副部会長あいさつ～当部会は、加山先生と社会福祉協議会の方との、長年の悲願だったと聞いている。積極的に推進することを補佐していきたい。
* 各委員、自己紹介

**３ CSWについて**(19:53～)

**加山部会長より、ＣＳＷの重要性や中野区での体制について、また他自治体での取り組みについて確認が行われた**

* **CSWの重要性:**地域の課題を解決するために、コミュニティソーシャルワーク（CSW）の役割が強調された。地域の課題は複雑化・高度化しており、課題を発見し地域の方と一緒に解決したり、地域づくりをすることに特化した専門職は求められている。中野区は、すこやか福祉センターを拠点にアウトリーチ事業を展開しており、これは全国的にも珍しい取り組みになっている。
* **中野区の体制:** 中野区は、既存の圏域がしっかりしており、全区・すこやか福祉センター４圏域と区民活動センター15圏域があり、それぞれ連携して動く仕組みが整っている。また、社会福祉協議会（社協）でも地区担当制を取り入れており、長く信頼関係が築かれている。この連携により、地域の課題に対して迅速かつ効果的に対応できる体制が整っている。
* **文京区・豊島区の事例:** 文京区社協は4圏域に2人ずつ計8人、豊島区社協は8圏域に2人ずつ計16人のCSワーカーを配置している。これらの自治体の取り組みが紹介され、中野区でも同様の配置が必要とされている。
特に、文京区では地域福祉コーディネーターが区役所各部署に紹介され、地域の課題を発見しやすくする取り組みが行われている。
* **八王子市と渋谷区の事例:**八王子市は重層的支援体制整備事業を通じてCSワーカーの人数を倍増させ、渋谷区社会福祉協議会も13人増員している。これらの事例から、他自治体でも地域の課題が複雑化・高度化していることが示されている。特に、八王子市ではCSワーカーが地域の課題を発見し、住民と一緒に解決する取り組みが進められている。

**４　地域福祉コーディネーターの活動について　秋元委員より～** (20:06～)

* 資料「中野区社協　地域福祉コーディネーターの活動」に沿って、説明

**５　地域連携の重要性について　加山部会長より～**(20:21～)

* **多様な関係者との連携**: 地域の関係者、専門職、ボランティアとの連携が強調された。住民、商店主、企業、医療関係者、教育関係者など、異なるバックグラウンドを持つ人々が協力することが求められている。これにより、地域の課題に対して多角的な視点からアプローチできるようになる。
* **一般企業との連携**: 一般企業との連携により、活動場所の提供やICTのサポートなどが期待されている。
例えば、企業が社会貢献活動の一環として地域の課題解決に協力することで、より効果的な支援が可能となる。

 **６　議論**(20:26～)

* **アウトリーチ連携について**
* アウトリーチチームは人員不足である。特に、桃園区活では職員2人で22,000人以上の人口をカバーしており、マンパワーが足りていないと感じる。地域支えあい活動は13年前に始まり、孤独死やフレイルの進行を防ぐために訪問活動を続けているが、住民の協力が不可欠になっている。また、中野区の特性を考慮し、10代から50代の人々へのアウトリーチが重要と示された。これに対して、AIやSNSを活用した24時間対応のアウトリーチを模索する等、資源の活用の検討が必要になるのでは、との意見があった。
* 豊島区社会福祉協議会では、住民を見守りサポーターとして300人を配置しており、中野区でもアウトリーチチームの応援団を増やすことが提案された。豊島区の例を参考に、住民を見守りサポーターとして組織し、アウトリーチチームの支援を実現することにより、アウトリーチ活動の効果を高めることが期待される。
* **警察からの情報提供や連携の重要性**
警察は保護がメインの業務であり、得た情報を地域で活用するための受け皿が必要とされた。
例えば、家庭内トラブルやご近所トラブルの情報を警察から受け取り、地域の支援活動に活かすことが求められている。
* **防火診断の推進**: 災害弱者向けの防火診断事業の推進が提案された。
地域づくりの一環として、災害対応の重要性が強調された。特に、防火診断を通じて地域の安全性を高める取り組みが求められている。
* **地域ネットワークの強化**

町会、老人クラブ、民生委員のネットワークが基礎となり、アウトリーチ活動の強化が求められた。
特に、南中野地域では見守り活動の格差があり、アウトリーチ担当者との連携が重要とされた。これにより、地域全体で支え合う体制が整えられる。

**７　事務局より** (２１:０5～)

* 次回は12月16日月曜日、19時から
* 全体会は3月12日水曜日、19時から